

研究評価委員会による研究課題の評価結果について(令和3年度)

令和3年9月

独立行政法人自動車技術総合機構交通安全環境研究所

1. はじめに

交通安全環境研究所(以下「研究所」という。)は、以下を背景に、研究所が行う研究課題について、社会ニーズに照らした必要性、目的・内容の適切性等の観点から評価を行っていただくことを目的として、研究所外部の専門家、有識者の方々から成る研究評価委員会を設置しています。

- (1)「国の研究開発評価に関する大綱的指針」(平成20年10月31日内閣総理大臣決定)において、国費を用いて実施される研究開発について、社会・経済に貢献するように実施されること等を確保するため、外部の有識者による外部評価を実施し、その結果を研究開発の進め方に反映させるよう求められています。
- (2)国土交通省独立行政法人評価委員会(*参照。以下「独法評価委員会」という。)より、各独立行政法人研究所の個別研究業務の必要性等については、研究所自身がピアレビュー(当該研究分野専門家による評価)を活用して評価を行い、独法評価委員会は、その評価の体制や結果の適切性を二次的に評価するとの方針が示されています。

(*)独立行政法人通則法に基づき、国土交通省が所管する各独立行政法人の業績評価を行う、外部の学識経験者等により構成される委員会。

- (3)独立行政法人自動車技術総合機構交通安全環境研究所研究管理規程(平成28年4月1日研究所規程第19号)において、研究所が行う研究については、受託によるものを除き、外部の有識者から成る評価委員会による事前、中間、事後の評価を受けることとされています。

研究所では、透明かつ厳正な外部研究評価を確保するため、具体的な評価要領を「交通安全環境研究所研究課題評価マニュアル」として策定し、これに従って研究評価委員会による研究課題の評価を実施していただいております。評価の対象は、国費である運営費交付金により交通安全環境研究所が自主的に計画を定めて実施する研究課題(経常研究)としています。

研究所は、研究評価委員会の評価結果や指摘事項を最大限尊重し、必要があれば研究計画の見直し等を行い、また、その他の指摘事項等についても、今後の研究活動に反映していく方針です。

2. 評価の概要

(1) 評価実施日

令和3年5月31日(月)

(2) 評価者

評価者は外部の有識者により構成される交通安全環境研究所研究評価委員会(以下「研究評価委員会」という。)です。研究評価委員会のメンバーは以下に示すとおりです。

委員長	大 聖 泰 弘	早稲田大学 名誉教授
委 員	東 雄 一	公益社団法人 自動車技術会 常務理事
委 員	五十嵐 一弘	日本車輛製造株式会社 代表取締役社長
委 員	小 酒 英 範	東京工業大学大学院 理工学研究科 教授
委 員	古 関 隆 章	東京大学大学院 工学系研究科 教授
委 員	柴 原 尚 希	中部大学 工学部 都市建設工学科 准教授
委 員	綱 島 均	日本大学 生産工学部 機械工学科 教授
委 員	鳥 塚 俊 洋	株式会社JAFMATE 社 ITMedia 部 部長
委 員	ボンサートン ラクシンチャラーンサク	東京農工大学 機械システム工学科 教授

(委員長以下五十音順、敬称略)

(3) 評価の対象と種類

国費である運営費交付金により交通安全環境研究所が自主的に計画を定めて実施する研究課題(経常研究)を評価の対象としています。今回は、以下の①及び③に掲げる研究課題について評価を行いました。

- ① 令和3年度から実施する経常研究課題に対する事前評価
- ② 平成30年度から実施し、5年以上の実施期間を予定している特別研究課題及び経常研究課題に対する中間評価(本年度は該当無し)
- ③ 令和2年度に終了した経常研究課題に対する事後評価

(4) 評価結果

事前評価及び中間評価においては、社会的必要性、研究所が行う必要性、期待される社会的効果、研究の先見性・独創性等、また、事後評価においては、研究の進め方、得られた成果、期待される社会的効果等多くの視点に立った評価項目について厳正な評価をいただきました。評価は項目毎に5段階評価の上数値化(1～5点)し、ご出席頂いた委員の評価の平均を項目毎の評価としています。更に、研究課題毎に全項目の評価の平均点を総合評価としています。また、各項目及び全体について、各委員からご意見・ご指摘をいただいております。

その結果、個別の研究内容や成果については、専門的な立場から様々な視点に立った重要なご示唆、ご指摘をいただきましたが、事前評価については、今回評価対象となった全ての研究課題について、社会的必要性等が認められ、研究所が令和2年度から実施することが適当であるという評価をいただき、一方、事後評価については、研究の進め方は適切であり、期待された成果が得られているとの評価をいただきました。個別の研究課題の概要と評価結果の要約は、事前評価は別添1(別ファイル)、事後評価は別添2(別ファイル)のとおりです。

交通安全環境研究所では、これらの評価結果及びいただいたご指摘等を尊重し、必要に応じ、研究計画の適切な修正や研究業務の改善等に活用していくこととしています。

令和3年度 研究評価対象課題一覧

【事前評価】

課題 番号	研究の 種別	研究課題名	チーム長	研究期間
前 01	経常	台上試験の信頼性の確保及びリアルワールドの排出ガス等を公平に評価する手法に関する研究	奥井 伸宜	R3-R5 (3 年)
前 02	経常	新たな列車制御システムを用いた交通システムの安全性評価に関する研究	工藤 希	R3-R5 (3 年)
前 03	経常	モニタリングシステムによる索道の運転状態の評価に関する研究	千島 美智男	R3-R5 (3 年)
前 04	経常	衛星測位をはじめとする車上位位置検知技術の評価に関する研究	山口 大助	R3-R5 (3 年)
前 05	経常	地方鉄道の踏切における安全性向上技術評価の検討	長谷川 智紀	R3-R5 (3 年)

【事後評価】

課題 番号	研究の 種別	研究課題名	チーム長	研究期間
後 01	経常	ブレーキ検査方法の高度化に関する研究	関根 道昭	H31-R2 (2 年)
後 02	経常	再現性や公平性を高めた実用燃費、電費評価手法に関する研究	奥井 伸宜	H30-R2 (3 年)
後 03	経常	地方鉄道及びL R Tを対象とした自動運転技術活用に関する研究	竹内 俊裕	H30-R2 (3 年)
後 04	経常	新たな鉄道信号システムに対応する新しい安全設計手法の評価に関する研究	工藤 希	H30-R2 (3 年)
後 05	経常	車上位主体型列車制御システムにおける列車位置検知技術の評価に関する研究	山口 大助	H30-R2 (3 年)